

第 43 回愛媛県小学校体育研修会記録

発表都市：新居浜市

【研究テーマ】

仲間と豊かに関わり合える学びの場を工夫することで、誰もが運動の楽しさや喜びを味わい、意欲的に取り組む、愛顔いっぱいの子どもを育てる（ボール運動領域）

新居浜市立金子小学校 工藤 奏生 教諭

◎ 研究協議

Q:「気付き発見タイム」（話し合い活動）は、1 時間にどれくらいの時間を確保したのか。

A:今年度と昨年度の内容は違うが、授業時間内の 5 分間確保した。

Q:話し合い活動により、運動量が減るのではないかと思うが、運動量確保のために工夫したことは。

A:思考判断を促すことに重点を置きつつも、ドリルゲームで体を動かして運動量を確保した。

Q:一部の子どもだけがボールを扱うことはなかったか。

A:ルールとして内野と外野の動けるエリアを指定し、近くの子どもが守備をしなければならないことにした。特に一部の子どもだけが動くということではなかった。

Q:学習指導要領に書かれているベースボール型における技能について、どのように捉えて取り入れたか。

A 今年度は、守備を念頭に置いて実施した。今後は、次のステップとして「打つ」技能についても考えていきたい。

Q:子どもたちにどんな課題やつまづきがあったか。

A:一番の課題として、「捕る」技能が挙げられる。そのため、教具の選定（弾まず、飛び過ぎないボールなど）について検討していきたい。

Q:「気付き発見タイム」の中で、大事にしているポイントを教えて欲しい。

A:「気付き発見タイム」は、新居浜市が 7 年間取り組んでいる活動である。これまでの取組から、目的意識（めあて）をもって話し合いに臨めるように、話し合いの手引きで話し合いの仕方やポイントを明確にした。

Q:全 11 時間の指導の流れについて、単元をどのような流れで行い、どのように変遷したのか。

A:ゴールイメージをもちながら、単元計画の中で、教師が意図して教材を実施している。しかし、昨年度の実施を見ていると、タッチアウトルールの難しさを感じ、子どもの実態に応じてルールを変更して実施した。子どもたちの意見を聞きながらゲームの中のルールを決めた。

◎ 指導助言（愛媛大学教育学部 教授 日野克博 先生）

「愛顔いっぱい」から「愛顔つながる」になった。「愛顔つながる」にするためには、体育を通して、体と心を育てていく必要がある。そして、それが「愛顔つながる」に変わっていく。さらに、みんなが同じ方向を向いて取り組み、チームとしての意識をもつことが大切である。新居浜市の実践については、NPB から提供された教材による実践を取り入れており、研修が生きている。まずやってみて、そこから形を変えながら多くの実践が実施されていると感じた。教師は、子どもたちが教材とどのように出会うのかを考えることが大切である。これからも子どもの実態に合わせて、育てたい子ども像を考えたりして欲しい。

【研究テーマ】

他者との関わりを大切にしながら、豊かな身体表現を引き出すことで、心身を解放して踊る楽しさや喜びを味わう愛顔いっぱいの子どもを育てる（表現運動領域）

八幡浜市立松蔭小学校 伊東 伸也 教諭

◎ 研究協議

Q:評価の観点について教えて欲しい。

A:4つのくずし（①体のくずし、②リズムのくずし、③人間関係のくずし、④空間・場のくずし）を評価の基準にした。

Q:技能を育てるための取組について教えて欲しい。

A:外部講師を活用し、技能を高めた。

Q:他教科との関連について教えて欲しい。

A:話合いにおける態度が身に付き、体育の時間以外の話合い活動等に生かすことができた。

Q:選曲はどうしたか。

A:教師が選んだ曲を使用した。

Q:単元における子どもの様子について教えて欲しい。

A:子どもの感想では、「上田先生（外部講師）のダンスに感動した。」「友達との話合いで新たに発見があった。」というものがあつた。

Q:表現運動において「支える」とは、どのような活動になるのか。

A:イメージカードでの活動で、友達の動きについて称賛したり、アドバイスをしたりした。それらの声掛けも「支える」ということだと考える。

Q:即興的に動く活動をした際に、動きについて例示はしたのか。

A:例示は、していない。子どもたちは、自由に発想して、意外に即興的に動いていた。

◎ 指導助言（愛媛大学教育学部 教授 日野克博 先生）

重要なのは、子どもたちをゴールに導くことである。教師が子どもたちをどこまで引っ張っていくのかは、難しいところである。ダンスも同じである。4つのくずしは、ポイントとして多いのではないか。3つの「つ」にしてみると、繋ぐの「つ」、伝えるの「つ」、続けるの「つ」の3つの「つ」を示す方法もある。他にも積み重ねるの「つ」、使えるの「つ」もある。



【実技研修テーマ】

運動が苦手な子への指導

ーネット型スポーツの体系的な教材を例にしてー

愛媛大学 教授 日野克博先生

◎ 講義

- ・ スキップができない人の対処法・・・できる人と手をつないでやってみる。
→ 頭で考え過ぎず、体で覚える。リラックスする。
- ・ 二重跳びができない人の対処法・・・声を出して跳ぶ。「いち、に、さーん」
→ 力の入れ具合とタイミングがポイント
- ・ 体を柔らかくしたい人の対処法・・・鼻を指（豚鼻にする）で押して15秒間数える。
→ 脱力する。
- ・ 運動が苦手な子どもへの指導～ネット型～
「楽しい授業」から「もっと楽しい授業」へ、「みんなが」楽しい授業から「みんなで」楽しい授業を目指す。内容は変わらないけど、授業は変わらないといけない。子どもが主体的に課題解決に取り組む体育授業にすること。運動が苦手な子どもや意欲的でない子どもも楽しめる体育授業にすること。子どもに「やさしい」体育授業にすることが大切である。

◎ 実技研修

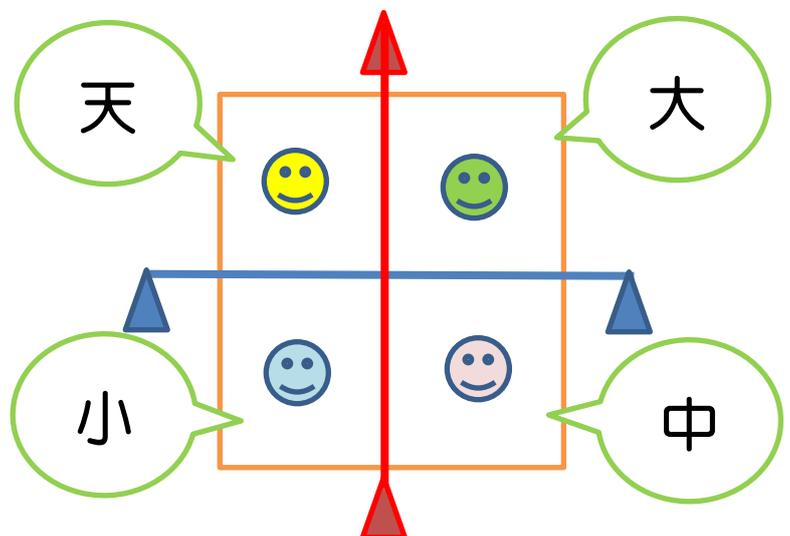
ゲーム①「天大中小を基にしたゲーム（田の字ラリー）」

バトミントンのコートを利用（コートの半分を1チーム8～10人で使用）し、コートの形や大きさを変えることができるようにネットの代わりにコーンにスズランテープ（7m、5m）を貼り付けて使用した。ボールは、ソフトバレーボールを使用した。まずは、2対2でラリーを行い、次は、ラリーをゲーム形式で行った。最後に、天大中小のコートを決めて、ゲームを行った。

「みんなで楽しい体育」にするために

- ・ 人数やコート、行い方、ルールなどの条件を変える。
→ その際に、チームで話し合いの時間をとってルールを工夫する。例えば、コーンを動かしてコートの広さを変えるなど。
- ・ 他のチームとも交流する。
→ チーム内の3人は残り、他のメンバーは移動して他のチームに入る。そして、それぞれのコートのルールでゲームを楽しみ、再度自分のコートに戻って自分の学んできたこと（ルール）などを紹介し合う。

【コートのイメージ】



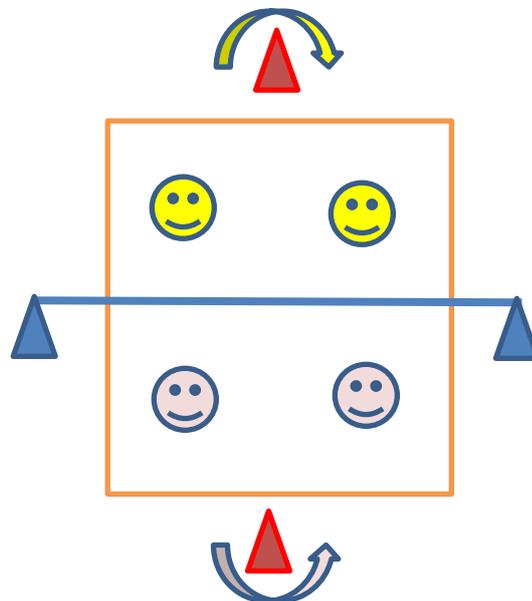
ゲーム②「テニスやバドミントンを基にしたゲーム（日の字ラリー）」

ゲーム①と同じコートで、ネットを1つにして、日の字のコートを作る。ボールも同様にソフトバレーボールを使用した。人数は、2対2で行った。

【コートイメージ】

「みんなで楽しい体育」にするために

- ・ 運動量を確保する。
→ 2人が交互に打つようにして、打った後に、必ずコートの後方のコーンを回らなければならないルールにする。
- ・ チームの力によって条件を変える。
→ コーンを動かし、コートの広さを
変えることで、力の差を調整する。



ゲーム③「テニスやバドミントンを基にしたゲーム（ダンボリー）」

ゲーム②と同じコートで行う。ボールは、ソフトボールサイズのビニールボールを使用した。人数は、2対2で行った。今回は、段ボールに軍手を貼り付け（軍手を卓球のラケットサイズに切った段ボール2枚ではさむ）、卓球のラケットを模した教具を使用した。そのため、片手でボールを扱い、よりテニスやバドミントンに近いゲームになった。

